大切なのは、ひと、自然、平和

ゆりネット　便り

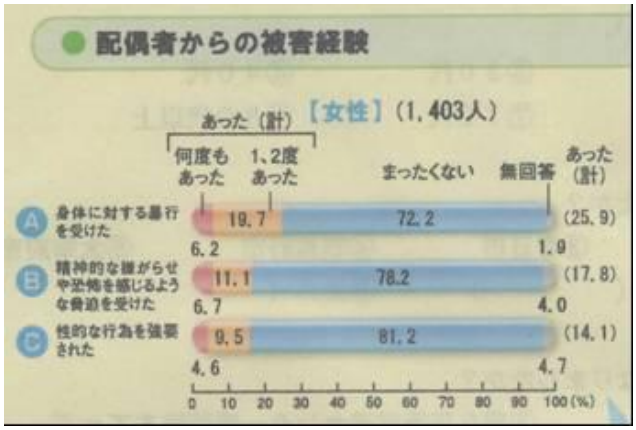
NO1　.2015 年 1 月

発行:ゆりネット（松崎ゆり子後援会）
TEL・FAX:（092）589―7220
〒816-0964 大野城市南ヶ丘 2-22-3-203
ﾒｰﾙ:　yuri.net55@gmail.com
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ:「まつざき百合子」で検索

●女性の約3人に1人 32.9%は配偶者から暴力を受けたことがあり、約 10 人に 1 人は何度も受けています（DV には、身体的暴力だけでなく、言葉など精神的暴力、性的暴力、生活費を渡さないなど経済的暴力があります）。

●7 人に 1 人 13.7%の女性が恋人からのデート DV の経験があります。

●13 人に 1 人 8%の女性が異性からレイプの経験があります。加害者の 62%はよく知っている人です。　（2012 年内閣府調査↓）



◆DV は犯罪です。

◆DV 防止法により、支援が受けられます

・シェルター（避難所）の利用

・保護命令（加害者の接近を禁止）

・警察による加害者への警告や逮捕

・弁護士の相談　など

＜一人で悩まないで相談しましょう＞

・福岡県女性相談所: 092－711－9874
（月―金）9:00～17:15

・福岡県 DV 相談電話:092－716－0424
（月―金 17:15～24 土日祝 9～24）

・大野城市まどかぴあ男女平等推進センター:
092－586－4035

「DVは子供に連鎖」

被害者支援団体 対策の重要性講演

宮崎市

2002 5/11 宮日

親しい男女間の暴力（DV＝ドメスティックバイオレンス）の被害者を支援するフォーラムは十一日、宮崎市民プラザであった。「ハートスペースM」主催で、約八十人が参加。福岡県内で被害者が駆け込むシェルターを運営している「センターの松崎百合子代表が、DVの現状や今後の課題について語った。

同センターは一九九七年に在日外国人女性を支援するため設立。現在は二カ所のシェルターを職員六人で運営している。昨年の相談件数は三百四十一件。シェルター利用件数二十六件のうち日本人が約七割を占める。

DV対策が進む米国の姿勢について「夫婦間の暴力は子供に連鎖する。安心して暮らせない環境は心理面で不安定な状況をつくり、ひいては社会全体の安全を損なう、という視点でDV対策が重視された」と説明した。

一方、国内の実情を「夫が主で妻が従属的という男女の力関係が、社会のあらゆる場で反映されていることがDVの背景にある。逃げようとしても援助するシステムがなく、長くDVが密閉され、継続してきた」と指摘した。

九七年に約十五カ所だった国内の民間シェルターは現在、四十カ所近くに増加。松崎さんは同センターでの経験から、電話相談が大きな役割を果たすことを強調。「相談の中で被害者が力を得て新しい道を見つけたり、たとえ関係が続いても安全な対処法を知ることができる。自立に向けては①被害者の心身の健康②生活の再建③離婚手続きや子供の親権問題など法律面での整備―を大切に活動している」と語った。

「いろいろな機関が被害者を支援すれば、暴力を断ち切ることは可能になる。一つ一つの事例を大切に、支援機関・者が当事者と一緒に考えていく必要がある」と締めくくった。

DV被害者の支援について講演する松崎百合子・代表

↑2002 年 5 月 11 日宮崎日日新聞　団体名は消しています

松崎ゆり子プロフィール

1955 年　熊本県天草市生まれ。
1974 年　県立天草高校卒業
1979 年　熊本大学教育学部卒業
2001 年　九州大学大学院修士課程修了
（現在）
NPO法人女性エンパワーメントセンター福岡　代表
福岡県女性研修の翼　会員
大野城市女性ネットワーク　役員
大野城市人権政策審議会　委員
（これまでの主な活動）
1979 年～民間コンピュータ会社勤務（15 年間）
1981 年～アジアの女性問題に取り組む
1992 年～「婚外子差別をなくし戸籍制度を考える会」設立
1997 年　九州初の民間DVシェルター設立

市議会に もっと女性を! 現在 20 人中 5 人 のみです

女性や子ども、高齢者への暴力と貧困防止に取り組みます。

暴力や貧困のない地域は
みんなが笑顔で幸せになります！